

麻しん（はしか）患者の発生について

横浜市内の医療機関から2月25日（火）に麻しん患者の届出があり、市衛生研究所における遺伝子検査でも陽性であることが確定しました。

保健所が患者の行動や接触者について調査したところ、周囲へ感染させる可能性のある時期に、公共交通機関を利用していたことが判明しました。

当該交通機関を同じ時間帯に利用された方で、利用後10日前後経ってから、麻しんを疑う症状（別紙）が現れた場合は、事前に医療機関に電話連絡の上、指示に従い受診してください。また、移動の際は、周囲への感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

【感染可能期間内に患者が利用した交通機関】

1 令和7年2月16日（日）

●東急東横線

午前6時57分 綱島駅乗車 → 午前7時18分 渋谷駅下車
午後10時00分頃 渋谷駅乗車 → 午後10時30分頃 綱島駅下車

●京王バス

午前7時29分 渋谷駅乗車 → 午前7時47分 幡ヶ谷駅下車
午後9時30分頃 幡ヶ谷駅乗車 → 午後10時00分頃 渋谷駅下車

2 令和7年2月17日（月）

●東急東横線

午前6時48分 綱島駅乗車 → 午前7時21分 渋谷駅下車
午後10時00分頃 渋谷駅乗車 → 午後10時30分頃 綱島駅下車

●京王バス

午前7時30分頃 渋谷駅乗車 → 午前7時50分頃 幡ヶ谷駅下車
午後9時30分頃 幡ヶ谷駅乗車 → 午後10時00分頃 渋谷駅下車

3 令和7年2月21日（金）

●東急東横線

午前10時台 綱島駅乗車 → 菊名駅下車
午後1時台 菊名駅乗車 → 綱島駅下車

※各公共交通機関へのお問い合わせは御遠慮ください。

患者の概要：20歳代 女性 予防接種歴：なし
経過等：2月上旬 タイから帰国
2月17日 発症日（発熱）
2月21日 咽頭痛、咳嗽出現し、市内医療機関を受診
2月24日 発疹出現
2月25日 麻しん診断・届出
2月26日 市衛生研究所が実施した遺伝子検査で麻しん陽性判明

【麻しん発生動向（本件を含まず）】※1 令和7年2月26日時点 ※2 令和5～6年暫定値、令和7年2月19日時点（国立感染症研究所）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
横浜市	0	0	1	0	0	0 ^{*1}
全国	10	6	6	28 ^{*2}	45 ^{*2}	3 ^{*2}

【件】

<お願い>

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等が特定されないことがないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

お問合せ先		
横浜市保健所健康安全課長	赤松 智子	Tel 045-671-2442

麻疹(はしか)について

麻疹ウイルスによる感染症で、非常に感染力が強く、抗体がない人が感染するとほぼ100%発症します。

麻疹は、一度かかった人及び2回の予防接種により十分な免疫をもっている人は、発病する心配はないと言われています。

主な症状

- ・感染すると10～12日間の潜伏期間を経て、発熱、咳、鼻水など風邪のような症状が現れ、2～3日間発熱が続いた後に、39度以上の高熱と全身に赤い発疹がでます。
- ・症状が出現する1日前から解熱後3日くらいまで周りの人に感染させる力があります。

感染経路

- ・空気感染、飛沫感染、接触感染でせきやくしゃみ等の飛沫からだけでなく、麻疹患者と同じ空間にいるだけで感染します。

もし麻疹患者と接触したら？

- ・麻疹患者と最後に接触した日から21日間は毎日体温を測り、健康観察をしましょう。
- ・万が一、症状が現れた場合は事前に医療機関に連絡し、医療機関の指示に従って受診してください。移動は周囲への感染を拡げないように、公共交通機関等の利用を避けてください。

麻疹の予防方法

☑ワクチン

- ・麻疹はワクチンで予防できます。母子手帳などで接種歴を確認し、小学生以上の方で2回接種をしていない場合は、ワクチンを接種することをお勧めします。
- ・麻疹風疹混合(MRワクチン)は予防接種法で定期予防接種の対象とされています。対象となる方は、接種期間に適切に予防接種を受けましょう。

▶横浜市保健所「麻疹・風疹について」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/measles.html>

※夜間、休日の医療機関案内は、#7119、かながわ救急相談センター

045-232-7119、045-523-7119(24時間・年中無休)にご相談ください。